

長沢ため池

(ながさわためいけ)



全景



ため池の概要

□ため池の所在地

山口県阿武郡阿武町

□ため池の特徴

長沢ため池は、慶長7年(1602年)、領内に不毛の地があることを嘆いた領主益田越中守元祥が、かんがい用水池として築造したと伝えられています。築造後約400年を経過し、近年改修工事が行われ、現在は40ha余りの水田に農業用水を供給しています。

地元では、平成16年の改修工事をきっかけに特定農業法人「福の里」を立ち上げ、ミネラル米栽培に取り組み、福の里ブランド米として県内外から高い評価を得ています。

また、「福の里」女性部が加工施設の運営に携わり、直売所での餅、野菜や花卉等の販売を手がけるなど、ため池は地域の農業生産全般に大きな影響力を持っています。

長沢ため池は、絶滅危惧種の淡水産貝である「フネドブガイ」が生息する山口県唯一の場所とされています。また絶滅危惧種の昆虫である「オオルリハムシ」が、植物「シロネ」を食草として生息しており、ため池は「オオルリハムシ」の生息に欠かせない環境要因となっています。

現在、阿武町では長沢ため池を地域の観光資源に位置づけており、ため池の北側の公園には、築造時の斜樋が石碑とともに展示されています。

公園からの眺めは美しく、毎年11月に行われるルーラル315フェスタでは、特に多くの都市住民がため池周辺を訪れています。

関連情報

江畑溜池堰堤

(えばたためいけえんてい)



堰堤の表面は、上・下流側ともに花崗岩の張石が用いられている。



堤体全景

ため池の概要

□ため池の所在地

山口県山口市

□ため池の特徴

江畑溜池堰堤は、国内最古のコンクリート造重力式ダムで、昭和5年の築造以来80年にわたり下流農地30haを潤し続けています。

現在の施設が建設される以前は、土堰堤が明治22年(1889)に造成されましたが、翌23年の豪雨で決壊し地域に大きな被害をもたらしました。その後しばらくは、下流民の反対で再建は実現しませんでした。昭和2年(1927)11月に再建計画が立案され、昭和5年に現在の堰堤が竣工しました。

壁面に花崗岩張石が用いられ、その表面を黒色に塗った堰堤は、周囲の風景に溶け込み落ち着いた佇まいを見せています。平成13年10月に国の登録有形文化財(建造物)として登録されています。

この歴史ある堰堤を地域の財産として受け継いでいくため、郷土研究会などの題材としても使われています。

関連情報

文化遺産オンライン

<http://bunka.nii.ac.jp/SearchDetail.do?heritageId=162559>

常盤湖

(ときわこ)



全景



野鳥の飛来地

ため池の概要

□ため池の所在地

山口県宇部市

□ため池の特徴

常盤湖はかんがい面積71haを有する大規模な農業用ため池です。周辺には100haに及ぶ湿地があり、秋冬には1000羽を超えるカモ類など多くの野鳥の飛来地として有名で、身近なバードウォッチングの場となっています。

湖は、元禄11年(1698年)、水不足解消のため棕梨権左衛門俊平によって築造され、完成後、宇部村の石高を倍増させ、今日まで300年以上にわたり地域の田畑を潤してきました。

常盤湖を中心とする「ときわ公園」では、シンボルである白鳥は5種400羽が飼われ、また、園内には90点を超える彫刻が展示され自然と芸術が調和した美しい景観が広がっています。

公園は、山口県初の「登録記念物(名勝地関係)」に登録され、「日本の都市公園100選」「日本さくら名所100選」「美しい日本の歩きたくなるみち500選」にも選ばれています。

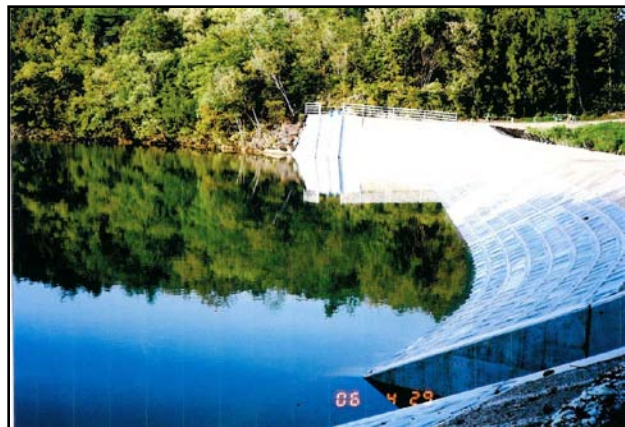
関連情報

ときわ公園公式サイト「<http://tokiwa.ube.ac/>」

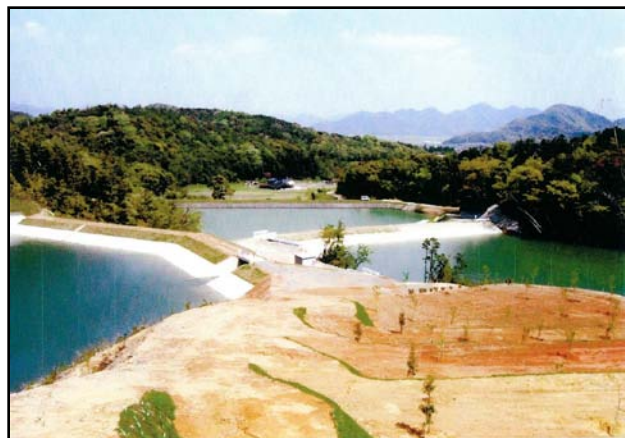
ときわ公園冊子

河内・西ノ岡ため池

(こうち・にしのおかためいけ)



全景



ため池の概要

□ため池の所在地

山口県山口市

□ため池の特徴

河内・西ノ岡ため池は、地域の約30haの農地を潤す重要な水源となっているほか、防火や消火用水としても利用されており、この地域の生活には不可欠な存在です。

ため池の周囲に展開する散歩道からは、夏は蛍が乱舞し、冬は渡り鳥のカモが群れをなして姿を見せ、四季の変化に富んだため池の姿を見ることができます。

また、池内には絶滅危惧種(レッドデータやまぐち)となっているウキシバ、ミズニラの生息が確認されており、ため池は希少生物の生息空間となっています。

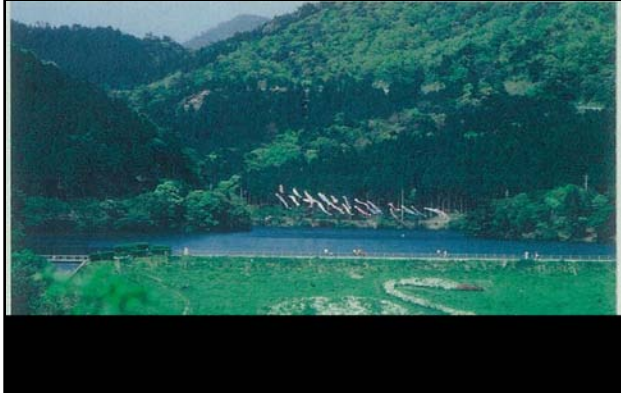
近年では、地元の小学生を対象とした、水源を辿るワークショップや地区の文化祭などが行われ、地域住民と一体となった活動が展開されています。

関連情報

ため池群モデル協議会だより
防災マップ
利水マップ

深坂溜池

(みさかためいけ)



全景



ため池の概要

□ため池の所在地

山口県下関市

□ため池の特徴

深坂溜池は、水田約300haに水を供給している地元の重要な水源で、人々が苦勞して造りあげた歴史があります。

周辺一体は「深坂自然の森」で、春には桜が咲き、堤体はツツジで白鳥をかたどられ、人々がウォーキングなどを楽しんでいます。

大きな川が無く毎年水不足に苦勞してきた安岡地区で、明治末、村の有志により深坂溜池の築造が計画され、延べ13万人、10年の歳月、30万円（今なら30億以上）をかけ、大正13年、河川源流に造られました。

ため池出口には円筒分水工があり、長年の水争いや調整の苦勞を滲ませています。

稲作のほか、ふぐ料理や瓦そば等郷土料理に欠かせない「安岡ネギ」など畑作も盛んで、地域の農業、文化形成に大きな役割を果たしています。

池には、希少種のほか多種の昆虫類が生息し、豊かな自然との深い交流ができる場所です。下関環境総合計画でも、市内では珍しくなったカエル、イモリなど保全すべき典型的な生態系を持つ地域として位置づけられています。

関連情報

【深坂の溜池と安岡土地改良区】下関市安岡土地改良区資料

江汐ため池

(えじおためいけ)



全景



ため池の概要

□ため池の所在地

山口県山陽小野田市

□ため池の特徴

江汐ため池は、寛文12年(1672年)に毛利藩の干拓による高泊開作新田周辺400町歩のかんがいたため池として築造され、周辺の都市化が進んだ現在も農地78haに農業用水を供給しています。

この池のおかげで高泊地区では、米作を中心とした土地利用型の営農が行われ、特に近年ではパン用小麦ニシノカオリの産地となっています。

周辺は自然を基調とした県立江汐公園として整備され、アカマツ、ツバキ等140種の草木があります。また、準絶滅危惧種のカイツブリを始め、冬季は渡り鳥のカモやオシドリの飛来地となり、他にもカワセミ、フクロウ等91種余りの鳥類が生息しています。

ミョウバンが含まれた水は空のように青く、桜、ツツジが湖面に映る姿は非常に美しく、春のつつじ祭、秋の紅葉や、キャンプ、アスレチックなど運動施設も整備され、四季を通じ市民の憩いの場となっています。

関連情報

深田ため池

(ふかだためいけ)



全景



多くの観光客を魅了する幻想的な風景
(川尻岬に夕日が沈んだ後には無数の漁火
が灯りを照らす)

ため池の概要

□ため池の所在地

山口県長門市

□ため池の特徴

深田ため池は、棚田百選に選ばれている東後畑地区8haを潤しており、周囲に河川がないこの地域の重要な水源となっています。

周囲の棚田に溶け込むため池の姿は非常に美しく、特に川尻岬に夕日が沈んだ後には無数の漁火が灯りを照らし、幻想的な風景の一つとなり、多くの観光客を魅了しています。

この地区では、棚田米「楊貴妃の夢」のブランド化と、但馬牛の導入による高級和牛の産地づくりを進めており、和牛の放牧が耕地保全の一端を担い、水田利活用と活性化が図られています。

周辺の棚田には、用水と排水を兼ねた水路や土で造られた水路・畦畔が残っており、生物が成長に応じて田んぼ、水路、ため池を行き来することができる環境にあり、多種多様な小動物、昆虫、植物が複雑な生態系を築きあげています。

一方、地すべりの危険があるこの地域にとって、地元農家がため池を共同管理し、水田の耕作を継続することが、地すべり、洪水、土砂浸食防止等の国土保全はもちろん、下流の災害未然防止に大きな役割を果たしており、深田ため池は地域にとって欠かせない存在となっています。

関連情報

長沢池

(ながさわいけ)



全景



ため池の概要

□ため池の所在地

山口県山口市

□ため池の特徴

長沢池は、江戸初期の慶安4年(1651年)、代官東条九朗右衛門が、多くの人々の力を集積させて築き、天保年間には堤水の供給を受けた村は干ばつを逃れたとされています。湖畔の歴史郷土館では、維新の歴史とあわせて、ため池築造の歴史が紹介されています。

池の水を使う山口市と防府市の農地50haは多くが水田ですが、近年では小規模ながらブドウ生産も行われ、高糖度の良質な果実が市場で高い評価を受けるなど、地域農業には欠かせない存在となっています。

広大な湖面はコガモ等多くの冬鳥の越冬地となっており、時にはコハクチョウが飛来することもあります。

また、近隣にはベッコウトンボの生息地もあり、ため池は地域の生物多様性の保全に重要な水辺空間を形成しています。

関連情報

山口県観光協会HP 「おいでませ山口へ」

<http://www.oidemase.or.jp/>